

宇部市民オーケストラ

第18回 気軽にアンサンブル



本日は宇部市民オーケストラ「気軽にアンサンブル」に御来場いただきありがとうございます。この「気軽にアンサンブル」は2002年の開始以来、毎年この時期の宇部オケの恒例行事となり、今回で18回目を迎えました。日曜日午後のひとときを色々な編成の室内楽でお楽しみください。

宇部市民オーケストラ 団長 栗林宏明

プログラム

1. 早川正昭 【バロック風「日本の四季」より 海・荒城の月・春が来た】

Vn.1 安永恵・森萌実・下野優太 Vn.2 藤澤彩加 金岡源浩
Vn.3 清水治子 縄田美言 Vc.栗林宏明 加藤由香里

2. 久石譲 【おくりびと】

Vc.1 藤野緑 Vc.2 原田圭子 Vc.3 黒川明徳 Vc.4 加藤由香里

3. ヴィヴァーチェ 【即興曲（ウェディングマーチ付き）】

Vc.1 藤野緑 Vc.2 原田圭子 Vc.3 栗林宏明 Vc.4 加藤由香里

4. アストル・ピアツァ 【オブリビオン（忘却）】

Ob.宗國敦子 Vc.藤野緑 原田圭子 黒川明徳 加藤由香里 Cb.藤野隆

＜休憩＞

5. クリストフ・ウィバルト・グルック 【精霊たちの踊り】

Ob.宗國敦子 Vc.藤野緑

6. ピーター・ウォーロック 【カプリオール組曲(1-6 楽章)】

1.Basse-dance 2.Pavane 3.Tordion 4.Bransles 5.Pieds-en-l'air 6.Mattachins (Sword dance)

指揮：栗林宏明

Vn.1 安永恵 縄田美言 金岡源浩 藤澤彩加 Vn.2 森萌実 下野優太 清水治子
Va.上野明弘 浅海菜月 長谷部素子 Vc.藤野緑 原田圭子 加藤由香里 Cb.藤野隆

7. ヨハン・セバスティアン・バッハ 【ブランデンブルク協奏曲4番 第1楽章 Allegro】

指揮：栗林宏明

ソルフィス：Fl.村田恭子 高橋聖子 Vn.安永恵

ピエノ：Vn.1 金岡源浩 縄田美言 藤澤彩加 Vn.2 清水治子 森萌実 下野優太
Va.上野明弘 浅海菜月 長谷部素子 Vc.藤野緑 黒川明徳 Cb.藤野隆

＜次回予告＞

第21回 宇部市民オーケストラ「クラシックの午後」

「クラシック in CINEMA」～スクリーンを彩る名曲～

2019年9月1日(日) 午後2時開演 指揮：角 岳史

演奏曲目 R. シュトラウス作曲「ツアラトゥストラはかく語りき」～「序奏」

マスカーニ作曲「カヴァレリア・ルスティカーナ」

マーラー作曲 交響曲第5番嬰ハ短調～「アダージェット」

ヴァーグナー作曲「ヴァルキューレ」～「ヴァルキューレの騎行」

ベートーヴェン作曲 交響曲第7番イ長調

第18回気軽にアンサンブル 曲目紹介

1.【バロック風「日本の四季」より】早川正昭

日本におけるヴィヴァルディ研究の第一人者でもあり、また自ら東京ヴィヴァルディ合奏団を率いて国内でのバロック音楽の普及に努めてきた早川正昭は、40年ほど前、日本の歌をバロック風にアレンジし、ヴィヴァルディの「四季」にならって「春」「夏」「秋」「冬」と、それぞれ三曲ずつ四季の形態にして発表しました。元々はコンチェルト・グロッソの形式を取っていますが、今日は早川氏が弦楽四重奏用に編曲したものから、三曲を演奏致します。

「海」作者不詳 「荒城の月」滝廉太郎 「春が来た」岡野貞一

2.【おくりびと】久石譲

ジブリ映画の名曲を数々作曲している久石譲の作品です。チェリストでもあった主人公が劇中に弾いたこの曲は、様々を乗り越え家族とともに再生していく主人公に寄り添いました。今回は団員の友人が編曲したチェロ4重奏版でお届けします。

3.【即興曲(ウェディングマーチ付)】クレンゲル

19世紀後半チェリストとして活躍したクレンゲルはチェロのための楽曲を数多く残しました。

特にチェリストならではの音使いで響きが美しく、どのパートも楽しいチェロアンサンブル曲はプロ・アマ問わずチェロ弾きの大切なレパートリーとなっています。

4.【オブリビオン】ピアソラ

20世紀タンゴ界を代表する作曲家ピアソラは、ジャズに慣れ親しみ、その後タンゴに目覚め、バンドネオン奏者としても活躍した後にクラシックの作曲法も極めました。今回のオブリビオン(忘却)もその美しいメロディがジャジーな進行とタンゴのリズムにより一層の哀愁を際立たせます。自らもバンドネオンを演奏したピアソラ。今でも YouTube などでの演奏を聴くことができます。

5.【精霊たちの踊り】グルック

17世紀に活躍したドイツ出身のオペラ作曲家です。プラハ大学にて作曲と哲学を学びました。この美しい「精霊たちの踊り」は歌劇《オルフェオとエウリディーチェ》中、天国の野原で精霊たちが踊る場面で演奏される間奏曲です。今回はオーボエとチェロの2重奏でお届けします。

6.【カプリオール組曲】ピーター・ウォーロック

ピーター・ウォーロック(1894-1930)はロンドン生まれのイギリスの作曲家で、本名はフィリップ・ヘゼルタイン。ウォーロックとは「魔法使い」を意味するペンネームです。「カプリオール」という舞踊ステップの名を持つこの曲は、16世紀ルネサンス時代の舞曲集から6つを採り、纏めたものですが、20世紀の作品らしい響き、リズムも加味され、気軽に楽しめる弦楽合奏曲の佳作です。

7.【ブランデンブルグ協奏曲第4番 第一楽章】バッハ

昨年の第5番に引き続き、今回は第4番をお届けします。

この「第4番」は、1本のヴァイオリンと2本のフルートから成る「コンチェルティーノ」とよばれる「ソリスト群」と、「リピーエーノ」とよばれる弦楽合奏団が対比される書法でつくられています。こうした編成の曲はバロック時代(17世紀～18世紀頃)イタリアで発達した様式で「合奏協奏曲(コンチェルト・グロッソ)」とよばれています。

バッハは若い頃、ヴィヴァルディーをはじめとするイタリアの協奏曲を熱心に研究しました。この「ブランデンブルグ協奏曲第4番」は、その成果を遺憾なく発揮するとともに、バッハならではの高い精神性を盛り込んだ傑作です。